



子どもを大切にしない大人社会

～不適切な養育と児童虐待～

三浦捷也

(三浦歯科医院 院長)

人は誰でも、生まれた時には「人を愛する心」を持って生まれてくるものだと思っていたし、たとえ成長の過程で、たくさんのひどい目に遭って愛する心を失っても、我が子の命までも殺めることはないと信じていた。ところが、自分の子どもを可愛いと思わぬ親、自分の快樂のために我が子を邪魔だと思ふ親、自分の意に沿わないだけで激怒し、食事も与えず虐待し続け、死に至らしめる親がじわじわと増えている。

表面的には家庭の貧困や夫婦間でのトラブルが原因といわれることが多いが、常識を越えた異常な行動から考えると、こうした親が幼児期から思春期の成長過程で、親（養育者）の「適切でない養育」のもとで暮らしていたのではないだろうか。私はむしろ、そのことの方が大きな要因のような気がする。加えて、全国に広がる危険なあおり運転、不適切な動画を拡散する若者など、理解に苦しむ行動も目立つようになった。児童虐待も一連の問題行動の原因にも個々が抱える問題の他に、共通の要因として今の社会的背景や子どもを大切にしない大人の社会も深く関わっているように思える。

—子どもに優しくない社会環境—

近年、インターネット・スマホ・SNSなどが私たちの生活に深く入り込んでいる。その便利さや快適さに引き換え、知らず知らずの間に、子どもたちの将来にとって大切な人の心と人間の絆までも奪っているのではないだろうか。子

どもたちの遊びは動から静へ、外から内へ、仲間から個人へ、昼から夜へと移行している。そうした生活様式の変化が、食べる・寝る・遊ぶなどの基本的な生活に乱れを生じさせ、その結果、自分の思いや感情を素直に表現できない子どもが増えている。身体が大きくなり、知識が豊富になったにも関わらず、人を愛する優しい心が育っていない子どもも少なくない。将来子どもにとって、必須の条件である自律性・社会性・耐える力などが育ちにくい社会環境といわざるを得ない。

—子どもを大切にしない大人社会—

一方、子どもたちの模範となるべき大人社会といえば、経済主義・勝利至上主義・学力重視が最優先され、政治・経済はもとより、教育もスポーツも「損か得か」、「勝つか負けるか」、「出来るか出来ないか」、「味方か敵か」で判断されることが多くなっている。「打算」がなければ生きていけない世の中になり、弱きものを庇う気持ちが希薄になった。

高学歴者の多い政治家・官僚の不誠実で傲慢で不愉快な言動や行動が目立つ。スポーツ界でも全国で強豪校といわれる運動部の体罰や不祥事も後を絶たない。人を育てることを軽視し、「学力」、「勝つこと」を優先する社会のひずみが少しずつ見えている。

子供たちは常に斜に構え、大人の言動・行動を注意深く観察し、大人への不信感を募らせて

いる。この不信感が問題行動の背景への遠因になっているといっても過言ではない。大人が子どもたちを大切にしなくなって久しい。それが私の率直な実感である。

－子どもの発達と大人の役割－

私たちの普段の生活の中では、ほどよく規制が働き、お互いが譲り合い、そのうえで社会全体の秩序が保たれている。法的に許されても道徳的に許されない事柄については、常に周りの人々に照らして、それが正しいのかどうかを判断したり、行動することを自然に習慣づけられている。人々の異常な行動を律するのは、法ではなく、個々人の集団や仲間に対して働く、道徳心や倫理観、社会常識などが優先される。そして、これらは人間の誕生から現在までの家庭環境、社会の風潮、出会った書籍や友人、教師など数えきれない様々な要因によって培われている。

脳画像解析分野で世界最先端の研究をされている東北大学加齢医学研究所の瀧靖之教授は、著書のなかで「生涯健康脳を求めれば求めるほど、子どもの頃の過ごし方の重要性が明らかになった。子ども時代の生活習慣が脳に大きく関わっている」と述べ、脳医学者の立場からも「子どもの養育の大切さ」を指摘している。改めて、大人の役割と責任の大きさを痛感する。

－年齢相応に育っていない子どもたち－

今、「勉強のできる子は良い子」、「スポーツは勝てばよい」、「仲間に負けるな」といった社会風潮が強くなり、常態化している。その背景には子どもの能力や適性にはお構いなしに、子どもの自由を無視して親の思う幸福感・価値観を押し付けていることが多いように思える。こうした親の考え方が果たして「子どもの人権が守られているのか」、「自然の摂理に合っ

ているのか」、「子どもが年齢相応に育っているのか」といった観点からも、今一度考えてみる必要がある。

私たちは社会環境の大きな変化や、便利な生活に触れ過ぎ、目先の結果のみに目を奪われ、「子どもがちゃんとした順序を踏まなければ大人になれないのだ」とする子育てに対する先人の教えを忘れてしまっている。子どもの使命は「幸せな大人になる」ことであり、大人の使命は「子どもの幸せを支える」ことであることを大人自身が本気で認識しなければ、日本の将来はないのではないだろうか。

厳しい冬の寒さに耐え、踏ん張って生き抜いてきた庭の草木は、春になり芽を吹き、周りに調和しながら力強く一斉に美しい花が咲きそろっている。庭に目をやり、荘厳で神々しい自然の力と生命の神秘を知る。人の営みも「人間誕生の神秘」、「自然の摂理」を無視したような生き方はできないのだろう。虐待に対する法的規制も児童相談所の機能強化も大切だが、私たち大人が打算を捨て、相手を思いやる気持ちを忘れずに、決して傲慢にならず、自分らしくイキイキと生きることがより大切なのではないだろうか。自戒の念を込めて自分に言い聞かせている。

素晴らしい時代がすぐにやってくるとは思えないが「次の時代を創るのは子ども」である。

「人を愛する心は愛されることによって育つ」といわれる。大人から真の愛情を一杯に受けた子どもは「子どもの心を育てる大人」に成長するに違いない。その子供たちが親になり、次の子どもへと「心豊かに育つ養育の連鎖」が生まれてくるだろう。それを信じ、これからも「少年たちへの応援歌」を声高らかに歌い続けようと思う。